

### 3. 「地域検討会（地区の福祉を語るつどい）」によって明らかになったこと

平成16年（2004年）11月から平成17年（2005年）2月まで、小学校区単位の開催を基本として、市内33か所（33地区福祉委員会の全地域）で、社会福祉協議会及び同協議会各地区福祉委員会との共催で地域検討会（地区の福祉を語るつどい）を開催しました。参加者人数は延べ1,419名でした。

地域検討会（地区の福祉を語るつどい）は、参加者によるワークショップ（グループ討論）方式で行われ、以下の3つのテーマについて話し合いました。

- くらし・福祉をめぐる課題
- 住民が取り組めること
- 市や社会福祉協議会にのぞむこと、取り組んでほしいこと

ここでは、地域検討会（地区の福祉を語るつどい）で出された意見の中から主な課題について、公・民協働による解決に向けて、住民が取り組めること、市や社会福祉協議会が取り組むことを整理していきます。

#### 地域検討会（地区の福祉を語るつどい）で多かった意見としては、以下のよう なものがありました

##### （子ども・障害のある人・高齢者等の福祉をめぐる）

- ・子育てに不安をもつ親への支援
- ・子どもの見守り、子どもの安全
- ・身近な地域で気軽に相談できる場所
- ・障害者世帯の地域生活のサポート、精神障害者への支援
- ・ひとり暮らし高齢者の増加、その見守り・支援のこと
- ・高齢者夫婦世帯や昼間独居※世帯への支援が少ないこと
- ・地域活動等に誘っても参加されない高齢者への対応、孤独死の問題
- ・介護している家族への支援
- ・特別養護老人ホーム※等の施設整備

##### （地域コミュニティ、地域活動やその条件をめぐる）

- ・住民、特に新しいマンションでの住民の交流が少ない、助け合いに乏しい
- ・自治会・地区福祉委員会等の地域団体の役のなり手が少ない
- ・地域活動における若い担い手の確保
- ・自由に集える場所、活動や交流のできる場所の確保
- ・（その場所として）地区公民館・地区市民ホール等の施設や設備の改善、バリアフリー化
- ・福祉（サービス）やボランティア等に関する分かりやすい情報
- ・ボランティアの養成、ボランティアコーディネーターの養成・配置

##### （地域の環境をめぐる）

- ・子どもが遊べる安全な公園
- ・緑地が少ない
- ・中高生の居場所づくり
- ・路上駐車・放置自転車で通行が危険、改善してほしい
- ・道路、駅周辺のバリアフリー化 など

## (1) 子どもへの支援について

### ①子育て支援

子育ての孤立化が社会的な問題となる中、子育てに関する課題や意見も数多く出されました。

☆自治会の回覧板で子育ての情報をまわそう  
 ☆世代間交流による育児の支え合いをしよう  
 ☆子育てを応援できるネットワークづくりをしよう  
 ☆子どもは社会の宝、みんなで注目、みんなで注意

- ★特技のある人やボランティアのできる人の希望と、ボランティアを頼みたい人の要望をコーディネート※してほしい
- ★地域の子育て支援センターを中心に、もっと地域で活動している仲間との連携強化を進めてほしい

「地域みんなで子育てを」と、子育てサロン※や子育て支援の方法について、いろいろなアイディアが出ました。

☆のついた意見は「住民が取り組めること」、★のついた意見は「市や社会福祉協議会にのぞむこと、取り組んでほしいこと」です。(以下同様)

### ②子どもの安全

子どもの安全を守るにはどうすれば良いかについて多くの意見が出ました。

☆「安全パトロール」隊をつくろう  
 ☆子どもの登下校にあわせて外に出たり、ベランダから注意して見守ろう  
 ☆こども110番の旗を大きくするなど、充実しよう  
 ☆見守りの際、帽子や腕章をつけよう

- ★小学校に日中の警備員を配置してほしい
- ★保育園や小学校にキッズセーバー※を配置してほしい
- ★地域で見守りをしているとわかるよう、ジャンパーなどをつくってほしい

警備員の配置など必要ですが、日常生活の中で子どもたちを見守る方法についても多くの提案がありました。

## (2) 障害のある人への支援について

### 障害のある人への理解と支援

障害のある人への支援も徐々に広がってきていますが、地域における理解がもっと必要との声が多くありました。

☆自治会との協力で精神障害に関する勉強会を開こう  
 ☆障害のある人と小学校との交流をしよう  
 ☆障害者施設にボランティアとして参加するなど、行事を共催しよう

- ★講座を開催するなど、障害のある人を知ってもらうための啓発活動を積極的に行ってほしい

また、障害のある人が地域におられても分からない、どのように支援すれば良いのかなどの意見もありました。

### (3) 高齢者への支援について

#### ①ひとり暮らし高齢者への支援

ひとり暮らし高齢者への支援は各地区から課題として出され、また実際に多くの取り組みがされています。

☆住民のネットワークによる見守り・声かけをしよう  
 ☆安否確認のため、新聞販売店等と連携しよう  
 ☆情報のキーステーションづくり  
 ☆「お元気ですか」コールや「こんなことやってます」コールをしよう

- ★ひとり暮らし高齢者への市の関わりを強化する
- ★市や保健所がひとり暮らし高齢者を訪問する
- ★ひとり暮らし高齢者に何か起こった際の対応マニュアルを早急につくってほしい
- ★地域ケア会議を強化してほしい

「見守り・声かけ」の方法にも地域での工夫が数多くみられました。

#### ②昼間独居・高齢者夫婦世帯への支援

ひとり暮らし高齢者だけでなく、昼間独居の方や高齢者夫婦世帯への支援も求められています。

☆高齢者夫婦世帯にも昼食会をし、会場を2か所に  
 ☆ボランティアの裾野を広げよう  
 ☆高齢者夫婦世帯にも配食サービスをしよう

- ★ふれあい昼食会※、いきいきサロン※の補助金を拡大してほしい

地域で現在行われている活動の対象を広げるためには、行政の財政的な支援は不可欠という意見が多くありました。

### (4) 福祉意識の向上や福祉の相談窓口について

#### ①福祉の関心を広げよう

福祉に関心がない人が多いことから、福祉への関心をいかに広げるかについても話し合いが進みました。

☆自治会単位で福祉に関する勉強会を開こう  
 ☆人に関わることが福祉だという気持ちで、向上心を高めていこう

- ★福祉に関する勉強会に人材派遣をしてほしい
- ★公民館などを利用して福祉のPRをしてほしい
- ★住民に社会福祉協議会のことを知ってもらう取り組みをしてほしい

地域で開く勉強会に行政から人材派遣をしてほしいという依頼です。学習も公・民協働の取り組みが必要です。

## ②相談窓口が欲しい

福祉についてどこに相談すれば良いかわからない、などの理由から、総合相談窓口をという意見が多く出ました。

☆「高齢者119番の家」をつくろう  
☆医療・生活・介護などについて住民による相談窓口をつくろう

- ★高齢者の相談室を設置してほしい
- ★総合的な相談窓口の設置と支援・指導制度を確立してほしい
- ★相談窓口をPRしてほしい

行政に相談窓口ができることも重要ですが、より身近な地域で、住民同士での相談をという声もあがりました。

## (5) 地域活動・ボランティアについて

## ①ボランティアが少ない

ボランティアが注目される中、ボランティア参加者の少なさが指摘されました。

☆ボランティアを増やし、一緒に活動することで仲間になろう  
☆ボランティア募集と情報を多く流そう  
☆休日などに子どものボランティア参加を促そう  
☆地域通貨を利用しよう

- ★住民がボランティア参加しやすい場を提供して
- ★市報でわかりやすくボランティアの紹介をしてほしい
- ★ボランティアコーディネーターを充実してほしい(ボランティアセンター)
- ★地区ボランティアの養成講座を開催してほしい

ボランティア情報の充実などのほか、シニア世代や若者のボランティアへの積極的な参加を求める声が多くありました。

## ②住民同士の交流がもっとほしい

地域コミュニティのつながりが希薄になりつつあり、もっと住民同士で交流したい、助け合いをとの声が多くありました。

☆隣近所や商店の人とあいさつし、顔なじみになろう  
☆近所に関心を持つようにしよう  
☆地域の機関紙をつくろう  
☆イベントを企画し、人の輪を広げよう  
☆コミュニティの連帯をつくる活動をしよう

- ★地域のホームページ作成の支援をしてほしい
- ★地域食堂をつくってほしい
- ★コミュニティセンター等をつくって人のつながりを図ってほしい

まずは住民同士があいさつをし合うなど、日頃からつながりをつくることが大切ですが、行政の支援も必要です。

### ③地域のネットワークづくりを進めたい

地域にはさまざまな団体がありますが、その団体同士での連携やネットワークづくりが必要になっています。

☆地域の活動団体や自治会、民生委員・児童委員、地域の人、医療・福祉事業者との連携をとろう  
☆施設職員と各地区委員との定期的な交流会を開こう

- ★地域のNPOなど福祉団体の紹介をしてほしい
- ★市や社会福祉協議会が地域に入り、連携した取り組みを
- ★行政側から担当者を決めて地域交流を進んでやってほしい

地域で活動する住民団体だけではなく、行政の関係機関とも連携をとって、地域交流を進めていく必要があります。

## (6) 交流の場について

### 気軽に集まれる場所がほしい

住民が気軽に集まれる場所が身近にほしいという声が多くあがりました。

☆地域の人たちの集まりの場を楽しくするため、ティーコーナーをつくろう  
☆小さな単位の地区で集まれる場所を確保しよう  
☆公共施設の利用方法を心得て、積極的に活用しよう  
☆コミュニケーションが図れる街かどステーションを

- ★高齢者・障害者・青少年などの区別なく、住民が気軽に集まれる場所をつくってほしい

「場所」は行政に要望しますが、その中身をつくるのは住民自身であるということで、いろいろな意見が出されました。

## (7) 福祉に関する情報について

### 福祉の情報が欲しい

福祉サービスに関するだけでなく、地域の福祉活動についての情報などの充実を求める声が多く出ました。

☆「ふくし新聞」をわかりやすくし、年2~3回発行し、住民に読んでもらえるよう工夫しよう  
☆各自治会の活動行事や展望など、地区でまとめて発表できることを考えよう

- ★市の広報誌で、デイサービスセンターの情報や各種相談窓口の詳細をわかりやすく紹介してほしい
- ★制度の説明会を開いてほしい
- ★福祉施設や福祉活動の情報を記した機関紙を発行してほしい

行政からの発信と地域からの発信が必要ですが、その発信方法についてもさまざまな工夫が意見として出ました。

## (8) 駐車・駐輪について

### 路上駐車・駐輪が多い

どうしたら路上駐車・駐輪がなくなるか、市民啓発の点からも意見が活発に出了ました。

☆1 km以内は自転車はやめて、歩く習慣をつけよう  
 ☆もっと公共交通機関を利用するようにしよう  
 ☆地域の諸団体が連携し、見回りをして違法ステッカーを貼ろう  
 ☆駐車場がない時は乗っていかないようにしよう

- ★市や警察が不法駐車・駐輪をもっと取り締まって
- ★市営の駐車場や駐輪場をつくってほしい
- ★自転車の無料貸出をしてみても

江坂駅前や千里山駅前の駐輪問題の意見が多く出了ました。バリアフリーの点からも多くの意見が出了ました。

## (9) 道路・バリアフリーについて

### ① 駅や道路をバリアフリーに

駅や道路のバリアフリー化は多くの地域で出された意見でした。

☆各自が地域の危険箇所を調査しよう  
 ☆バリアフリーマップをつくろう  
 ☆バリアの写真撮って意識改革をしよう

- ★バリアについての写真展を市役所ロビーでしてみても
- ★駅や道路のバリアフリーを進めてほしい

どこがバリアフリーになっていないかは、その地域に暮らす住民がいちばん知っている、という意見が多くありました。

### ② 道が暗くてこわい

防犯灯が少なく、道が暗いために夜間の外出が危険であるとの意見が多くありました。

☆街灯(防犯灯)の電球切れや暗いものを見かけたらすぐ連絡できるように街灯(防犯灯)に連絡先を貼っておこう  
 ☆夜間、自宅の街灯や門灯をともすようにし、それを各自治会の防犯委員が徹底しよう

- ★街灯(防犯灯)を水銀灯に交換してより明るく
- ★街灯(防犯灯)を増やしてほしい

防犯灯を設置するだけではなく、家の門灯を使ってまちを明るくするというのはひとつのアイデアです。

## (10)安全(防災・防犯)について

### ①災害時の対応を

災害時には、地域による助け合いと行政による救援活動の両方が必要となります。

☆要援護者の居住地マップと名簿をつくろう  
 ☆近隣者で避難場所の確認をし、避難経路を歩いて確かめるなど、日頃からシミュレーションを  
 ☆自主防災活動の推進  
 ☆「第一次対応」を住民全員が知っておこう

- ★防災マニュアルを作成して、周知してほしい
- ★防災資材置場のPRをしてほしい
- ★自主防災活動への支援をしてほしい
- ★高齢者にもわかりやすい災害マップの作成を

災害発生時に一人で避難できない高齢者など支援を要する人への対応には関心が高く、多くの意見が出ました。

### ②防犯対策

悪質な訪問販売や空き巣、不審者の目撃などがあり、地域の防犯への関心が高まっています。

☆防犯の勉強会を開き、意識づけしよう  
 ☆自治会単位でパトロールをしよう  
 ☆小さなことでも交番に届けよう  
 ☆火の用心や夜間の見回りを強化しよう

- ★警察によるパトロールをしてほしい
- ★情報をもっと早く流してほしい

地域における取り組みで、犯罪を未然に防ぐことも大切です。